

齒界展望 別冊 口腔保健の最新動向—新たなる構築のために
世界口腔保健学術大会講演集

齒界展望/別冊

口腔保健の最新動向—新たなる構築のために
世界口腔保健学術大会講演集

平成6年11月30日発行

地域での活動を通して—愛知県における“8020 運動”の展開—

愛知県歯科医師会専務理事

坂井 剛

はじめに

「8020 運動」が提唱されて5年を経過した。その間、愛知県では“8020”表彰事業として強力に啓蒙活動を推進し、今では県民の約55%が“8020”を何らかの形で知っている状況となっている(図1)。またそれと並行して“8020”疫学調査を実施し、いくつかの興味ある知見を得ている。一方“8020”を目指した公衆衛生活動の柱として、愛知県の103市区町村において成人歯科健診の実施を拡大、推進している。

今回は約668万人の愛知県民を対象とした地域歯科保健活動を進めるなかで、“8020”に向けての今後の課題として浮かび上がってきたものを考察し、歯科医師会として国民の幸福につながることにできることを提言してみたい。

「8020 運動」のこれまでの経過

歯科医師会として今後何ができるのか、どの時期に何を打ち出していくのか、将来に向けての的確な施策を得るために、一応これまでの経過を振り返ってみておきたい。

●1987年(昭和62年):厚木ワークショップで「めざそう80歳、欠損歯10歯まで」が提唱された。

●1989年(平成元年)3月:昭和63年度、愛知県衛生対策審議会にて成人歯科保健対策の目標として“8020”を打ち出し、「8020 運動」の推進を提

唱、本会はこれを受けて、

●平成元年11月:“8020”表彰事業を開始。この5年間の成績は表1のとおりである。

●平成元年12月:厚生省の「成人歯科保健対策検討会」(委員長・砂田今男・日本歯科医学会会長)の中間報告で“8020”を歯科保健目標の一つとして設定。

●1990年(平成2年)4月:“8020”疫学調査を開始。愛知学院大学歯学部口腔衛生学教室(中垣晴男教授)との協力事業として実施。①平成元年度の表彰者を対象とした疫学調査、②常滑市の80歳以上の方全員の疫学調査、③平成4年“8020”表彰者の歯種別生存歯率の調査、などを行ってきた。これら調査のまとめは表2~5のようである。

●1992年(平成4年)2月:“ワークショップ8020 愛知”を開催。厚生省の古市圭治・健康政策局長、岡光序治・老人保健福祉部長を来賓にお迎

表1 “8020”表彰対象者

本年度	男性	女性	総数
平成元年	145	96	241
2年	151	92	243
3年	169	114	283
4年	176	154	330
5年	201	156	357
計	842	612	1,454

またあなたは
現役だ。

歯が丈夫に保たれるように、歯もかたくなに守らなければならぬ。

8020
キャンペーン

歯が丈夫に保たれるように、歯もかたくなに守らなければならぬ。

たくあん、ポリッポリッポリッ
ポリッポリッポリッポリッ
ポリッポリッポリッポリッ……。

歯が丈夫に保たれるように、歯もかたくなに守らなければならぬ。

8020
キャンペーン

歯が丈夫に保たれるように、歯もかたくなに守らなければならぬ。

スルメがめる、
幸せ者。

歯が丈夫に保たれるように、歯もかたくなに守らなければならぬ。

8020
キャンペーン

歯が丈夫に保たれるように、歯もかたくなに守らなければならぬ。

まめに長生き、80年。

歯が丈夫に保たれるように、歯もかたくなに守らなければならぬ。

8020
キャンペーン

歯が丈夫に保たれるように、歯もかたくなに守らなければならぬ。

愛知県歯科医師会

第41回愛知県歯科医師会
歯の健康づくり
みんなで作るのぞい

8020

歯とびあ8020

図 1

えした。この席上、平成4年度実施が決定した厚生省の“8020運動”推進事業（予算2,600万円）で毎年10県ずつ5年にわたる）について、宮武光吉・歯科衛生課長から説明、「8020運動」が全国に発信された。また同時に全国の3,300余の市町村における成人歯科保健の実態調査の結果も報告された。

●1993年(平成5年)2月：平成4年度の「8020運動」推進事業に愛知県が参加、本会との協同事業として「8020歯・ハ・はのフェスティバル」を開催した。そのほかに県は「8020運動」推進会議、「8020運動」実践指導者の研修会、「8020運動」マニュアルづくりなども行った。またこれらと並行して春日井保健所において“成人歯科保健対策

表 2 “8020 運動” 疫学調査

① 平成元年度 “8020” 表彰者の疫学調査
② 常滑市における 80 歳以上全員の疫学調査
③ “8020” 表彰者の口腔状況の基礎調査

表 3 80 歳で 20 本以上歯を保つには

① 子供時代の厳しい躰が必要である
② 間食（甘味）をあまり摂らない
③ かかりつけ歯科医院と定期検診
④ 六歳臼歯を健康に保持すること
⑤ 歯科疾患の早期治療に努力する

（“8020” 疫学調査より）

表 4 常滑市・80 歳以上の疫学調査

① 8020 達成者は 8.3% だった
② 甘いものを好まなかった
③ 間食の回数が少なかった
④ 歯並びがきれいであった

表 5 “8020” 表彰者の口腔内状況

① 第一大臼歯の生存歯率は 72%
② 前歯の生存率は 94.7% で最高
③ DMFT は 18.44 で F が最高
④ CPITN はコード 0 ~ 2 が多い

モデル事業” も 2 年間にわたり実施されている。

●平成 5 年 4 月：厚生省の児童家庭局母子衛生課から「六歳臼歯の保護・育成運動」モデル事業が国保課のヘルス・パイオニア・タウン事業にのせて実施することの委託があった。現在、尾張旭市と海部郡佐屋町で 3 年間にわたる事業として実施中である（図 2）。これはもともと岩手県に話があって始まったことであり、岩手県・一の関市と田野畑村でも同様のモデル事業が進行中である。

●1994 年（平成 6 年）2 月：平成 5 年度の愛知県衛生対策審議会の歯科専門部会で「8020 運動」の一環として、「六歳臼歯の保護・育成運動」を推進することを提唱。これを受けて本会では平成 6



図 2

年度以降、公衆衛生、学校歯科の主要な事業の一つとして強力に展開することを決定。

「六歳臼歯の保護・育成運動」推進の根拠としては、1991 年度（平成 3 年の“8020”表彰者 330 人の歯種別生存歯率の調査から第一大臼歯の生存歯率が 72% の高率（昭和 62 年の国民歯科疾患実態調査では 80 歳以上の方のそれはわずか 9%）であることが判明し、六歳臼歯を守ることが“8020”実現への非常に有効な方策であるとの結論を得たことによる。図 3 に示すように、六歳臼歯の生存率が高い群（8020 表彰群）では他の歯種も生存率は高く、昭和 62 年実態調査のように六歳臼歯の低い場合は他の歯種の生存率も低くなる。

“8020” に向けての今後の課題

“生涯自分の歯で” を目指し、国民個々のライフステージに合わせて、いつでも、どこでも、だれでも適切な歯科健康診査、教育、相談、予防処置、治療などが受けられるような“8020”システムの構築が必要となる。

本会では“8020”表彰事業と並行して実施してきた疫学調査などから“8020”達成のために、次

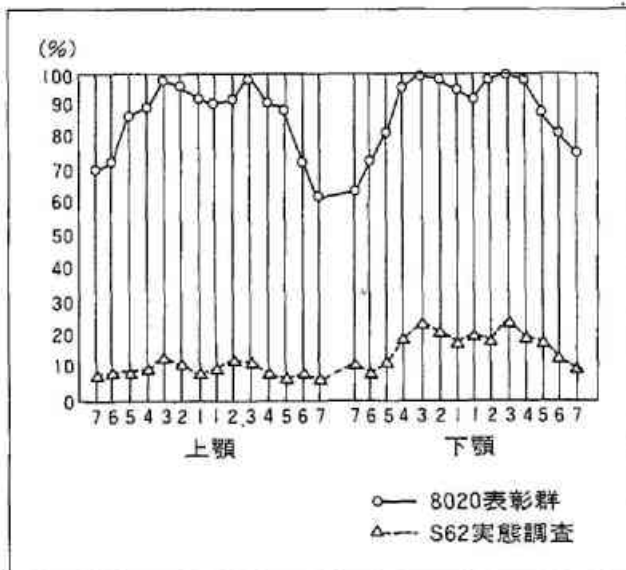


図3 愛知県における“8020”表彰者の歯牙生存率 (平成4年度)

の3つの事業に的をしぼって強力に推進していきたいと考えている。

(1) 六歳臼歯の保護・育成運動

疫学調査などの結果から“8020”の達成には幼児期からの齧や、間食なども含めて健康的な生活習慣を身につけることが必要と判明した。それを六歳臼歯の生え始めから4本全部生えそろうまで、家庭や幼・保育園、学校を中心とした子供たちの生活環境を整備することで守り育てていこうという運動である。六歳臼歯を守りきれば“8020”は達成可能と考えられる。

(2) 成人歯科健診の拡大・推進

本会では1988年(昭和63年)より表6のような進行表を使い、県内103市区町村(名古屋市の16区を含む)成人歯科健診の拡大・推進状況をD-Aランクの内容の高度化も含めて把握しながら事業を進めている。老健法の規定にはないものの1992年(平成4年)でみると健康診査を含む事業展開をしているところが24~35カ所に増えてきている。前ガン症状をみる粘膜健診のAランクま

表6 愛知県103市区町村の成人歯科保健実施進行表

年	S63	H1	H2	H3	H4	H7	H12 2000
分類							
A	1	1	1	2	3	20	30
B	24	24	26	29	35	40	73
C	60	66	70	68	64	43	0
D	18	12	6	4	1	0	0
計	103	103	103	103	103	103	103

- A: 口腔ガン、顎関節検診も含めた成人の総合歯科健康診査を中心とした成人歯科保健対策事業を実施し、健康診査後のケアまで充実している市区町村
- B: 歯科健康診査を中心として成人歯科保健対策事業を複数の一定年齢健診などきめ細かく実施している市区町村
- C: 健康教育・健康診査を中心とした成人歯科保健対策事業を実施している市区町村
- D: 成人歯科保健対策事業未実施市区町村

で向上させる必要があると考え、健診のための研修会も開催している。今後は50歳、60歳などの節目健診を推進する考えである。

(3) 8020 関係学術研究の奨励

「8020 運動」は今後もイベント、事業、研究の3本柱で進められる。なかでも研究はこの運動をどう展開し、地域の歯科保健・医療・福祉をどう進めるかについての指針を与えてくれるものである。すでに本会では8020疫学調査のなかから六歳臼歯の保護・育成運動につながる指針を得た。さらに調査研究を続けて次には50歳以降急速に増える欠損歯をどう減少させるか、的確な指針を得たいと考えている(図4)。学術研究の奨励については次の項で3つの提案をしておきたい。

おわりに

21世紀の日本は世界のどの国もまだ経験したことのない超高齢化社会を迎える。2025年には65歳以上の高齢人口約3,300万人、そのうち約500

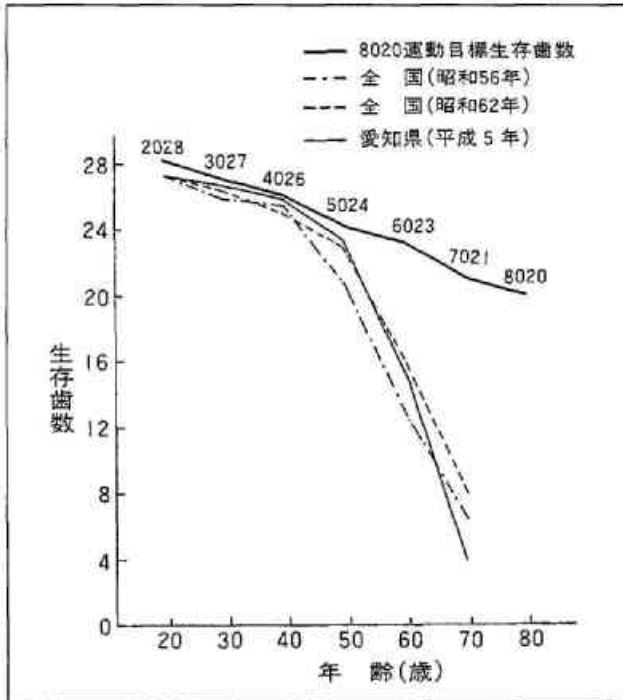


図4 年代別生存歯数曲線(歯科疾患実態調査)

万人が寝たきりや痴呆などの要介護老人になると予測されている。国はそれに備えて国立長寿医療センターを創設し、長寿に関する科学研究を始めようとしている。歯科における高齢化の研究はまだこれからであり、噛むことの重要性について、全身の健康にどんな影響を及ぼすのかを解明しなければならない。

「8020運動」は国民が自分の歯を大切にする意識を育てると同時に、個々の歯科医が日常の臨床のなかで患者さんに語りかけ、「8020」を意識した治療を行うこと、またそれを支援する科学的な調査研究が常に行われていることなどで真に身のある運動になると思うのである。それには日歯が先頭に立って8020に関する研究を奨励し、歯科界を

あげて取り組む姿勢が大切である。優秀な論文には毎年「8020シンポジウム」を開いて発表をお願いし、奨励金を出すような制度ができるとよい。

さらに進んで、日本の研究成果を東南アジアの国々や、近い将来に高齢化社会を迎える国々の参考になるように「世界口腔保健センター」といったWHOの研究・研修機関を誘致するような計画を立ててみてはどうであろうか。JAICOHを支援し国際貢献の実をあげるのも21世紀の歯科界のプログラムに組み込みたいと思うのである。次に、それに関する3つの提言を行って結びとしたい。

提言

- ① 8020に関する研究奨励制度の創設
研究論文の募集
- ② 8020シンポジウムを毎年、日歯で開催
受賞論文の発表
- ③ 世界口腔保健研究研修センター設置
WHO機関の誘致

文献

- 1) 水野照久ほか：80歳で20歯以上保有するための生活習慣。日本公衛誌，40：189～195，1993。
- 2) 水野照久ほか：常滑市における80歳歯科健康調査。口腔衛生会誌，44：161～169，1994。
- 3) ワークショップ8020実行委員会：8020運動推進へのいざない「ワークショップ8020愛知」報告書。口腔保健協会，東京，1993。
- 4) 愛知県歯科医師会公衆衛生部：愛知県歯科医師会公衆衛生事業(平成3年度～平成5年度)。愛知県歯科医師会，1994。
- 5) 瀧川 融ほか：愛知県における8020表彰者の口腔内状況について。第36回日本口腔衛生学会東海地方会総会，1994。
- 6) 厚生省健康政策局歯科衛生課：昭和62年歯科疾患実態調査報告。口腔保健協会，東京，1987。